

HCDアワード ベストプラクティス推薦書

*は記入必須事項です

| 事例名* | いずれかを削除* | 記入者氏名* | 記入日* | |
|---|----------|--|-------|---------|
| 産業技術大学院大学 履修証明プログラム「人間中心デザイン」 | 自薦 | 安藤昌也 | 2014年 | 10月 20日 |
| <p>推薦理由*： HCD活動として優れている点、今後のご自身の活動において参考になる点などを記述して下さい。 従来、人間中心設計を学ぶには、書籍等による自習かOJT、あるいは経験者が講師を務めるセミナー等に出席することしか方法がなかった。本プログラムは、人間中心設計の考え方やその技法を体系的に学ぶことができるプログラムであり、130時間以上の教育内容はHCD-Netの理事など第一線の講師陣により実施されている。また、文部科学省の履修証明プログラムとして認定されており、実務的側面のみならず学術的な側面からも意義あるプログラムとなっている。2009年度より本年度で5期目であり、通産120名以上の修了生を排出し、現在35名の受講生が在籍している。修了生の中から人間中心設計専門家として認定される者も増えており、人間中心設計に関わる人材育成における貢献度は極めて高いと考える。また、hcdvalueなど、修了者のコミュニティ形成の契機にもなっており、我が国の人間中心設計に関する人々の交流の活性化にも貢献している。</p> | | <p>ISO9241-210で規定するプロセスの特定*： 5つのサブプロセスの中で該当する部分を特定し 活動の詳細をご記述く 本事例は、教育プログラムであり、9241-210のプロセスとは直接関係しない。</p> | | |
| <p>最終成果物の概要*： 概要を説明し 成果物を示す画像を貼ってください。ウェブページの場合はURLを明記して下さい。 http://aiit.ac.jp/certification_program/hcd/ ・安藤昌也, “人間中心デザインに関する専門教育プログラムの開発と実践”, 産業技術大学院大学紀要, No. 4, pp29-34, 2010.</p> | | <p>専門家としての評価*： 評価するポイントやできばえ、表彰による波及効果などをご記述ください。 本プログラムは、国内では同様の事例がなく、かつ大学院レベルのまとまった教育プログラムを公立大学が運営していることは、極めて特筆すべきことである。本機構から、大学およびプログラム責任者に対する表彰を行うことができれば、今後も本プログラムを継続することの理由になり、さらなる活性化を期待できる。</p> | | |
| <p>受付番号：30</p> | | <p>同意事項*： ご推薦いただいた事例は、推薦者名と共に、HCD-Net内で公開いたします。公開の可否について、以下のいずれかを○で囲んでください。</p> <p style="text-align: center;">承諾する</p> | | |

HCDアワード ベストプラクティス推薦書

*は記入必須事項です

| | |
|--|--|
| 事例名* | 参考資料：以下の欄内に添付してください。画像は合計1GB以内にしてください。 |
| 産業技術大学院大学 履修証明プログラム「人間中心デザイン」 | (必須) 本申請に記載されたプラクティスの成果物(製品やウェブサイトなど)の画像。 (任意) 本申請に記載されたプラクティス事例が紹介されている新聞・雑誌・ウェブページの記事や論文など。 |
| <ul style="list-style-type: none">履修証明プログラムWebサイト：http://aiit.ac.jp/certification_program/hcd/関連論文：安藤昌也, “人間中心デザインに関する専門教育プログラムの開発と実践”, 産業技術大学院大学紀要, No. 4, pp29-34, 2010.平成26年度 パンフレット：http://aiit.ac.jp/certification_program/hcd/pdf/h26_design05.pdf | |
| 受付番号：30 | |